

破
產
法

完

司法部記錄文庫
第六百七十四號

第五號
第二架
第八

司法部
第一九號
寄贈圖書文庫

司法部記錄課藏書
第一二號

XB50
H 6
1

与中
如

司
法
官
錄
冊

破
產
法

破産法

第一章 破産宣告

第一條 凡ソ商事ニ付キ支拂ヲ停止シタル者
ハ本人ノ申立又ハ債主一名若クハ数名ノ申
立ニ依リ又ハ職権ニ依リ裁判所ノ判決ヲ以
テ破産ヲ宣告セラル可シ

第二條 支拂停止ハ商事ヲ為ス者又高社ニ在
テハ業務擔當ノ任アル社員又ハ取締役若ク
ハ結算人其停止ノ日ヨリ起算シ十日以内ニ
書面又ハ口供ニテ管轄裁判所ニ届出ツ可シ
其届出ヲ為スニハ支拂停止ノ原由ヲ具シ且
貸借對照表及商業帳簿ヲ差出スコトヲ要ス
貸借對照表ニハ左ノ件クヲ記載ス可シ

XB500

H 6

1

第一 總テ動産不動産並ニ要求権ノ数及價額

第二 全負債ノ数及價額

第三 損害ノ概要

第四 一身及一家ノ月費

第三條 破産宣告書ニハ左ノ件々ヲ記載ス可シ

第一 支拂停止ノ日時

第二 主任裁判官一名及破産管財人一名若クハ数名ノ任命

第三 破産財團保管ノ為メニ必要ナル處置ノ命令

第四 破産者ノ負債者若クハ財團ニ屬スル

物件ノ現有者ニ對スル差留ノ命令

第五 破産者ノ総債主ヲシテ三ヶ月乃至六ヶ月以内ニ其要求ヲ主任裁判官ニ届出シムルノ催促

第六 調査ノ期日及債主集會ノ期日
破産宣告書ハ之ヲ検事局ニ差廻ス可シ

第四條 破産宣告ハ直チニ裁判所ノ揭示板並ニ破産者ノ店前ニ掲ケ及其地ノ新聞紙ニ登セ之ヲ公告シ且假執行ヲ為ス可キモノトス此公告ハ官報ニモ亦載ス可キモノトス

第五條 破産者ノ財産破産處分ノ費用ヲ償フニ足ラサル中ハ裁判上ノ破産處分ヲ中止シ

其旨ヲ公告ス可シ然レモ其財産破産處分ノ費用ヲ償フニ足ルコトノ明證アル中ハ職権又ハ申立ニ依リ直チニ破産處分ヲ復施スルコト得破産處分ノ中止中ニ在テハ第六十三條ノ規定ヲ適用スルコトヲ得

第六條 主任裁判官ハ總テノ破産處分ヲ管理監督シ其指令ハ假執行ヲ為ス可キモノトス然レモ此指令ニ對シテハ十四日以内ニ其裁判所ニ抗告スルコトヲ得其抗告ノ判定ニ對シテハ控訴ヲ為スコトヲ許サス
破産ニ関スル事務ハ勉メテ速カニ處分セサル可カラス

第七條 檢事局ハ職権ヲ以テ破産者犯罪ノ有

無ヲ搜查シ之カ為メニ商業帳簿其他書類ノ展閱ヲ要求スルコトヲ得

第二章 破産ノ効果

第八條 破産宣告ニ依リ破産者ハ其破産處分中自己ノ財産ノ現有及其管理處分ノ権ヲ失フ

破産宣告ノ日ヨリ後ハ總テ破産者ノ支拂及其他權利義務ヲ生ス可キ行為並ニ破産者ニ向ケタル支拂ハ自ラ無効トス

破産者ノ動産不動産ニ係ル訴訟並ニ執行ハ持リ破産管財人ヨリ又ハ破産管財人ニ對シテ之ヲ為シ又ハ継続スルコトヲ得

第九條 不動産ノ賃貸料ヲ轉消セシムル為メ

破産者ノ營業用ノ動産ニ對スル執行ハ三十日尙之ヲ猶豫セサル可カラズ但貸主其貸貸物取戻ノ権アル中ハ此限ニ在ラス

第十條 別除権ノ存スルニ非サレハ破産處分中破産者ノ財産ニ對シ各個債主ノ為メニ牽制執行ヲ為スルヲ得ス

第十一條 破産者ノ負債未タ辨済期限ニ至ラサルモ破産宣告ヲ以テ期限ニ至リタルモノトス

為替手形ノ美諾人若クハ美諾ナキ為替手形ノ振出人又ハ約束手形ノ振出人破産ヲ為シタル時其償還義務ニ付テモ前項ノ規定ヲ適用ス可キモノトス

第十二條 財團ニ對シテハ破産宣告ノ日ヨリ利息ヲ受クルコトヲ得ス但書入質入等總テ先取権ヲ以テ擔保セラレタル要求権ニ付テハ其抵保物ノ賣拂代價ニ滿ルマテハ利息ヲ受クルコトヲ得

第十三條 支拂停止ノ後又ハ支拂停止前十日以内ニ破産者其財産中ヨリ無報酬ノ得益ヲ他人ニ與フル総テノ行為殊ニ贈典無報酬若クハ不適當ノ報酬ヲ以テ義務ヲ引受クル契約期限ニ至ラサル負債辨済期限ニ至リタル負債ノ變體辨済及舊負債ノ為メ新ニ差入タル抵保ハ財團ニ對シテハ自ラ無効トス

第十四條 前條ノ行為ヲ除クノ外總テ支拂停

止ノ後破産宣告ノ前ニ於ケル破産者ノ支拂
及其他ノ行為ニシテ財團ノ損失トナルモノ
ハ相手方ニ於テ支拂停止ノ旨ヲ知りタル中
ニ限り財團ノ計算ノ為メニ之ヲ異議スルコ
ト得
前項ノ場合ニ於テ破産者手形ヲ支拂フタル
時ハ手形ヲ振出し若クハ振出サシムルノ際
支拂停止ノ旨ヲ知りタル振出人又ハ振出委
托人ヨリ又約束手形ニ在テハ裏書ノ際其旨
ヲ知りタル第一ノ裏書人ヨリ其支拂金額ヲ
償還セシム可シ
第十五條 正當ニ所得シタル書入権及登記ニ
因テ効力ヲ有ス可キ権利ハ支拂停止後ニ在

テハ其所得ノ時ヨリ十五日ヲ經過セサル時
ニ限り破産宣告ノ日ヲテ登記ヲ為スコトヲ得
第十六條 破産宣告ノ時ニ破産者及其相手方
ノ未タ履行セズ又ハ履行ヲ終ラサル双務契
約ハ一方ヨリ無賠償ニテ解約スルコトヲ得但
賃貸契約若クハ勞役ノ契約ニ在テ解約期限
ニ付キ協議調ハサル中ハ法律上又ハ土地慣
習上ノ豫告期限ニ據ル可シ
第十七條 契約者ノ一方其義務ヲ盡サ、ルカ
為メニ契約ヲ解除スルノ権利又ハ既ニ交付
シタル物件ヲ取戻スルノ権利ハ財團ニ對シ之
ヲ施行スルコトヲ得ス
第十八條 差引ノ権アル債主ハ期限ニ至ラサ

ル要求或ハ金額未定ノ要求ト虽モ財團ニ對シテ其権ヲ及ホスコヲ得一方ノ要求権破産宣告後若クハ支拂停止ノ後初メテ生シ又ハ所得セラレタルモノニ付テハ差引ヲ為スコトヲ得ス但其支拂停止ノ後ニ係ルモノニ付テハ相手方ニ於テ支拂停止ノ旨ヲ知ラサリシキハ此限ニ在ラス

第十九條 負債者其債主ニ損失ヲ加フルノ目約ヲ以テ為シタル行為ハ相手方情ヲ知りタル中ニ限リ其時日ノ如何ヲ向ハス債主之ヲ異議スルコトヲ得

第三章 別除権

第二十條 負債者ノ動産若クハ不動産ニ對シ

書入権質権其他ノ先取権ヲ有スル債主財團ヨリ金額ノ辨償ヲ受ケサル中ハ其抵保物件ノ賣拂代金ヨリ費用利息及元金ノ要求ニ付テ別除ノ辨償ヲ受ケルコトヲ得但費拂代金ノ過剩ハ買主ヨリ財團ニ拂込ム可シ

第二十一條 先取権ヲ有スル者左ノ如シ

第一 政府及地方官署ハ現時及未納ノ租税其他公費及手数料ノ為メ法律ニ依リ牽制ヲ以テ徵收ヲ為ス可キ物件ニ對シ其権ヲ有ス

第二 建設物貸主ハ現時及未済ノ貸賃並ニ其賃貸契約ヨリ生スル他ノ要求ノ為メ借主又ハ復借主ノ持込タル物件ニ

シテ未タ他ニ轉搬セサルモノニ對シ
其権ヲ有ス

第三 建設物借主ハ賃借契約ヨリ生シタル
貸主ニ對スル要求ノ為メ貸主ニ屬ス
ル建設物ノ附屬品ニシテ自己ノ現有
スルモノニ對シ其権ヲ有ス

第四 土地ノ貸主ハ現時及未済ノ貸賃並ニ
賃貸契約ヨリ生スル其他ノ要求ノ為
メ土地ノ收獲物及借主又ハ復借主ノ持
込タル物件ニシテ未タ他ニ轉搬セサ
ルモノニ對シ其権ヲ有ス

第五 土地ノ借主ハ賃借契約ヨリ生シタル
貸主ニ對スル要求ノ為メ貸主ニ屬ス

ル土地ノ附屬品ニシテ自己ノ現有ス
ルモノニ對シ其権ヲ有ス

第六 建設物構造又ハ樹木仕立ノ為メ地所
ヲ貸付ケル土地所有主ハ地上権ヲ有
スル者ニ對スル現時及未済ノ要求ノ
為メ其建物又ハ樹木ニ對シ其権ヲ有
ス

第七 旅宿ノ主人ハ旅籠料並ニ之ニ牽連シ
タル其他ノ要求ノ為メ旅客ニ屬スル
物件ニシテ未タ他ニ轉搬セサルモノ
ニ對シ其権ヲ有ス

第八 留置権アル者ハ其物件ニ對シ先取権
ヲ有ス

第九 傭人勞役者及高業助手ハ破産宣告ノ日ヨリ前一個月間ノ未收賃料ノ為メ又醫師、藥舗其他ノ者ハ破産者及其家族ノ最近ノ病ニ付テノ療治費用、看護費用及埋葬費用ノ要求ノ為メ破産者ノ總動産ニ對シ其賃料若クハ要求ノ抵保ニ充ツ可キモノニ付キ其権ヲ有ス

第二十二條 別除權相互ノ順序ハ左ノ如シ

第一 第二十一條ニ記載シタル先取權ハ書入權及質權ニ先ツモノトス

第二 第二十一條ニ掲ケタル先取權相互ノ順序ハ該條ニ示シタル列序ニ從フモ

ノトス

第三 同級ニ屬スル權利ハ平等ノ以例ヲ以

テ之ヲ償フ可シ然レモ前條第一ニ掲ケタル政府ノ先取權ハ地方官署ノ先取權ニ先ツモノトス

第四 書入權ノ順序ハ官簿ニ登記シタル時日ニ依テ定マルモノトス

第五 同一ノ物件ニ對シ數多ノ質權アル中其質權ノ順序ハ先ツ物件ノ現有ヲ以テ之ヲ定メ若シ數人互ニ現有者ト看做サル可キ時ハ其現有ノ最先ヲ以テ之ヲ定ム

或ル要求ノ為メ其順序ヲ異ニスル特別ナル

法律ノ規定ハ本條ノ規定ノ為メニ妨ケラル
ルコトナシ

第二十三條 別除権アル者其担保物件ノ賣拂
代金ヲ以テ辨償ヲ受ケ尚ホ不足アル中ハ通
常債主ト均一ノ割合ヲ以テ財團ヨリ其辨償
ヲ受クルコトヲ得

第二十四條 負債者支拂停止ノ後ニ遺産相続
ヲ為シタル中ハ遺産ノ債主及被贈與者ハ遺
産トシテ尚ホ現存スル物件若クハ負債者ニ
未タ支拂ハサル遺産物件ノ代價ニ付キ別除
権ヲ有ス

第二十五條 左ニ掲クル破産者ノ所有物件ニ
シテ別除権ノ存セサルモノハ之ヲ財團ニ加

ハテ債主ノ辨償ニ供スルコトヲ得ス

第一 破産者及其家族ノ為メ其身分ニ應シ
テ缺ク可カラサル衣類、寢具、家具、厨具

第二 破産者及其家族ニ於テ一月ヲ支フル
ニ必要ナル食料及薪炭

第三 職工、勞役者、技術者其他職務ヲ有スル
者ノ其職ヲ自ラ營ムニ必要ナル器具
其他ノ物件

第四 賃錢或ハ給金ニシテ生活ヲ支フルニ
必要ナル金額

第五 救助及其他恵恤セラレタル物件

第六 官吏及將校ノ職務上ノ收入ノ内官廳
ニ於テ定ムル金額

第七 勲章其他榮譽ノ記章

世襲財産ニ付テハ其關係ノ法律ニ依ル

第四章 警備處分

第二十六條 裁判所ハ其情況ニ依リ破産宣告

ト共ニ負債者ノ動産ニ封印ヲ為シ又負債者

ヲ留置シ若クハ監守スル處分ヲ為ス可シ

負債者逃走シ又ハ逃走セシトシ若クハ其財

産ヲ隱匿スル中ハ其地警察署ニテ債主一名

若クハ数名ノ申立ニ依リ又ハ職権ニ依リ破

産宣告前ニ於テモ此處分ヲ為ス可シ

高社ノ場合ニ在テハ無限責任ナル社員ノ身

體及財産ニ此處分ヲ為ス可シ

第二十七條 負債者第二條ノ規定ヲ履踐シ且

留置若クハ監守スルノ事由ナキ中ハ裁判所

ハ之ヲ差措ク可シ然レモ後日何時ニテモ

債主ノ申立又ハ職権ニ依リ前條ノ處分ヲ為

ス可シ

負債者ハ裁判所ノ許可ナクシテ其住地ヲ去

ルコトヲ得ス又裁判所ハ何時ニテモ負債者ヲ

拘引スルコトヲ得

第二十八條 負債者ノ釋放ハ留置若クハ監守

スルノ事由既ニ存セサル中裁判所ノ決議ヲ

以テ之ヲ為ス可シ然レモ裁判所ハ何回ニテ

モ裁判所及管財人ノ呼出ニ即時應スル為メ

ノ保證ヲ立テシムルコトヲ得保證物件ノ沒收

セラレタルモノハ財團ニ繰込ム可シ

第二十九條 封印ハ管財人負債者ノ財産ヲ財産目録ニ載セ現有シタル時解封セラレタルモノトス

第二十五條ニ掲ケタル物件及直チニ價ニ變スル丁又ハ財團ノ為メニ續テ利用スル丁ヲ封印ノ為メニ妨ケテラレ、物件ハ封印ヲ施スヲ要セス其變價及利用ヲ可キ物件ハ直チニ財産目録ニ載セ管財人ノ現有ニ歸ス可シ負債者ノ商業帳簿ハ直チニ管財人ニ引渡シ主任裁判官其景状ヲ檢定ス可シ特別高價ノ物件ハ直チニ管財人ニ引渡シ又ハ一時裁判所ニ引取ル丁ヲ得

第三十條 破産者ノ負債若クハ財團ニ屬スル

物件ノ現有者ハ差留ノ余令ニ依リ其支拂又ハ引渡ヲ管財人ニ向ヒ為ス可キノ督促ヲ受ケタルモノトス

其物件ニ付テ別除権ヲ行ハントスル者ハ之ヲ管財人ニ申出ツ可シ管財人其物件ヲ評價スルノ請求アレハ之ヲ承諾セサル可カラズ破産者ニ宛テタル電信書状及其他ノ送達物ハ管財人ニ引渡ス可シ管財人ハ之ヲ開封スルノ権アルモノトス其財團ニ關係ナキモノハ管財人之ヲ破産者ニ附與セサル可カラズ裁判所ハ郵便局、電信局及其他ノ運送營業者ニ對シ豫メ之ニ要スル通知ヲ為シ置ク可シ

第三十一條 主任裁判官ハ破産者及其家族ニ

財團ヨリ扶助料ヲ與ルコトヲ得

第五章 財團ノ管理及変價

第三十二條 各裁判區ニ義務トシテ管財人ト為ルニ適當スル者ノ名簿ヲ豫メ製シ置キ破産者アル毎ニ裁判所ニ於テ其人員中ヨリ之ヲ任ス可シ

第三十三條 管財人ノ執勞ニ對スル報酬ハ財團ヨリ第一ニ支辨ス其額ハ裁判所ニ於テ之ヲ定ム可シ

第三十四條 裁判所ハ何時ニテモ管財人ヲ易ハ又ハ他ノ管財人ヲ加フルコトヲ得

第三十五條 管財人ノ行為ニ甘キ其責任ハ普通代人タル者ノ責任ト同一ナリトス管財人

数名ナル中ハ共同ニ非サレハ事ヲ執ルコトヲ得ス但主任裁判官ヨリ管財人各個ニ特別ノ管財事務ヲ任シタル中ハ此限ニ在ラス

第三十六條 管財人ハ破産宣告後遅延ナク財團ヲ現有シ其管理及変價ニ着手ス可シ管財人ハ破産者ニ執務ノ補助ヲ請求スルコトヲ得主任裁判官ハ之カ為メ破産者ニ報酬ヲ與フルコトヲ得

第三十七條 管財人ハ主任裁判官ノ監督ニ屬シ其指揮ニ從フ可シ管財人ノ行為若クハ決定ニ對シ故障申立アル中ハ主任裁判官之ヲ判定ス此判定ハ假執行ヲ為ス可キモノトス
第三十八條 財産目録ハ裁判所職員又ハ其地

警察官ノ立會ヲ以テ管財人之ヲ調製スルモ
ノトス必要アレハ破産者ヲモ之ニ立會ハシ
ム可シ

總テ破産者ニ屬スル財産ハ財團ニ組入ル可
カラサルモノト虽モ之ヲ財産目錄ニ記載シ
其價額ヲ附記ス可シ必要ナル中ハ評價人ヲ
シテ其價額ヲ評定セシムルコトヲ得

財産目錄及其調製ノ際ニ作りタル筆記書ハ
其公認ヲ經タル謄本ヲ裁判所ニ置キ公衆ノ
展閱ニ供ス可シ

檢察官ハ其見込ニ依リ職権ヲ以テ財産目錄
ノ調製ニ立會フコトヲ得

第三十九條 破産者ニ屬セサル物件ヲ物権若

クハ人権ニ基キ財團ヨリ取戻スコトニ係ル爭
論ハ破産裁判所之ヲ裁判ス但不動産ニ係ル
モノハ其不動産所在地ノ裁判所之ヲ裁判ス
殊ニ左ニ掲クルモノハ之ヲ取戻スコトヲ得

第一 高品又ハ其他ノ物品ニシテ支拂停止
ノ前又ハ賣主ノ之ヲ聞知セサル前ニ
於テ取結タル賣買契約ニ基キ破産者
ニ送出シ破産者若クハ其被差困人ニ
於テ未タ受取ラサルモノ但第三者善意
ヲ以テ既ニ之ヲ買得シ又ハ質ニ取り
タルモノハ此限ニ在ラス

第二 高品又ハ其他ノ物品ニシテ保管又ハ
賣拂ノ為メ破産者ニ送付シ破産者又

ハ其被差國人ノ現有ニ存スルモノ
第三 第一及第二ノ場合ニ於テ高品又ハ其
他ノ物品既ニ賣却セラレタルハ其
代價ニシテ支拂若クハ差引又ハ他
ノ方法ニ依テ破産者ニ辨償セサルモ
第四 手形及債券ニシテ保管若クハ取立ノ
為メ又ハ指定シタル支拂ヲ為サシム
ル為メ破産者ニ送出シ未タ金因ニ變
換セスシテ破産者ノ現有ニ存スルモ
ノ
金額ニシテ保管若クハ交互計算ノ為
メ又ハ指定シタル支拂ヲ為サシムル

為メ破産者ニ送出シ未タ到達セス若
クハ到達後ト虽モ未タ破産者ノ計算
ニ稜サス又ハ其他ニ處分セラレサル
モノ

第四十條 管財人ハ主任裁判官ニ於テ定ムル
三十日ヲ超エサル期限内ニ破産者ヨリ差出
シタル届書及貸借對照表ヲ審査シ若シ破産
者ヨリ之ヲ差出サルハ自ラ貸借對照表ヲ
調製シ之ニ報告書ヲ添ヘテ主任裁判官ニ差
出ス可シ
貸借對照表及報告書ノ公認ヲ經タル謄本ハ
裁判所ニ於テ公衆ノ展閱ニ供ス可シ
此報告書及對照表ハ之ヲ檢察官ニ差廻ス可

シ
第四十一條 貸方ノ借方ニ超エルコト判然シタル中又ハ寛假契約ノ見込アル間ハ裁判所ハ主任裁判官ノ申立ニ依リ且管財人ノ意見ヲ聞キタル後其判定ヲ以テ管財人ヲシテ破産者ノ營業ヲ續行セシムルコトヲ得此場合ニ於テ尋常營業外ニ財團ニ属スル物件ヲ賣却スルコトハ主任裁判官ノ認可ヲ經且前以テ破産者ノ意見ヲ聞テ之ヲ為ス可キモノトス
第四十二條 不動産ハ主任裁判官ノ認可ヲ受ケ且豫メ評價ヲ為シタル後第一回ノ公賣ヲ為シ又十四日以内ニ於テ第二回ノ公賣ヲ為シテ之ヲ賣拂フ可シ若シ評價額ニ達セサル

申ハ第三回ノ公賣ヲ為シ此公賣ニ於テハ必ス最高價ノ申入人ニ賣渡スモノトス但前回ニ於ル最高價ノ申入ハ次回ニ於テ一層高價ノ申入ナキ中ハ其効ヲ失ハサルモノトス
不動産ハ公賣ニ付スルヲ通例トスレモ主任裁判官ノ認可ヲ得タル時ハ相對ニテ賣拂フコトヲ得

第四十三條 管財人ハ破産者ノ財産普通管理ニ付左ノ責任ヲ負フモノトス

第一 總テ財産ニ属スル破産者ノ貸方ヲ取立ル事

第二 總テ負債者其他ノ人ニ對スル破産者ノ權利ヲ實行且保全スル事

第三 左ニ掲クル事項ニシテ其金四百圓以上ナルモノニ付テハ破産者ノ意見ヲ聞キ主任裁判官ノ認可ヲ経ルコトヲ要ス

- 一 訴訟ヲ為ス事
- 二 和辭契約又ハ仲裁契約ヲ為ス事
- 三 質物ヲ受戻ス事
- 四 債主権ヲ移轉スル事
- 五 遺産相續又ハ遺囑贈與ヲ拒絶スル事
- 六 消費借ヲ為ス事
- 七 地所ヲ買入ル事
- 八 権利ヲ拋棄スル事
- 九 總テ財團ノ為メ新々ニ義務ヲ負擔スル事

第四十四條 財團ニ收入スル金四百圓ハ管理上ノ常費ニ充ツルモノ、外直チニ之ヲ破産裁判所ニ預ケ又ハ主任裁判官ヨリ指定スル銀行ニ預ク可シ其金四百圓ハ主任裁判官ノ命アルニ非サレハ支出スルコトヲ許サス

第四十五條 管財人ハ其管理中破産者有罪ノ行為アルコトヲ知得シタル片ハ之ヲ主任裁判官ニ申告スルノ義務アルモノトス裁判官ハ其申告ヲ検査官ニ差廻ス可シ

第四十六條 主任裁判官ハ破産ノ原由事情貸方借方並ニ其對照表其他管理及破産處分ニ關スル事件ニ付キ訊問ヲ為ス為メ何時ニテモ破産者其高業使用人、雇人及其他ノ關係者

ヲ呼出スルヲ得

第六章 債主

第一節 要求ノ届出及確定

第四十七條 破産者ノ総債主ハ要求ヲ財團ヨリ除斥セラレサル為メ其届出期限内ニ主任裁判官ニ届出ルルヲ破産宣告ノ公告ニ依リ督促セラレタルモノトス其届出ニハ権利ノ原因、要求金額、別除権又ハ先取権アル者ハ其権利ヲ明示シ及證據書類又ハ其謄本ヲ添フ可シ

他所ニ住スル債主ハ裁判所所在地ニ代人ヲ設置ス可シ

要求ノ届出及代人ノ設置ハ書面又ハ口供ヲ

以テス可シ書面ナル中ハ二通ヲ差出ス可シ所在分明ナル債主ニハ裁判所ヨリ特別ニ書状ヲ以テ其要求ノ届出ヲ督促ス可シ然レモ其書状ヲ受取ラサルカ為メ損害賠償ヲ要求スルルヲ得ス

第四十八條 要求ノ届出アル中ハ直チニ番号ヲ付シ二個ノ一覽表ニ記載ス可シ其一ハ特権アル要求トシ其二ハ通常ノ要求トス此両表ハ裁判所ニ於テ公衆ノ展覧ニ供ス可シ管財人ハ其使用ノ為メ届出及一覽表ノ謄本ヲ受タルモノトス

第四十九條 要求ノ調査ハ管財人ト成ル可クハ破産者トノ立會ヲ以テ主任裁判官之ヲ為

シ筆記ニ取り置ク可シ債主ハ自己又ハ代人
ヲ以テ調査ニ参加スルコトヲ得
主任裁判官ハ債主ヲシテ商業帳簿若クハ其
抜書ヲ差出サシムルコトヲ得
調査ノ結果ハ前條ノ一覽表及負債證書ニ附
記シ且債主又ハ其代人ニ示ス可シ
調査期日ハ届出期限ノ経過シタル後十日乃
至十五日マテニ於テスルヲ通例トス
届出期限経過ノ後ニ届出タル要求モ同シク
調査期日ニ之ヲ調査スルコトヲ得但之ニ對シ
故障ノ申立アリタル片並ニ調査期日後ニ届
出タル片ハ其期ニ後レタル債主ノ費用ヲ以
テ更ニ調査ヲ為ス可シ

第五十條 要求ハ是認又ハ裁判所ノ判決ヲ以
テ確定ス調査期日ニ於テ管財人及要求ノ確
定シタル債主並ニ貸借對照表ニ載セラレタ
ル債主ノ異議ナキ片ハ其要求ハ是認セラレ
タルモノトス
管財人ノ要求ニ付テハ主任裁判官管財人ニ
代リ其是認又ハ異議ヲ為ス可シ

第五十一條 異議ヲ受ケタル諸要求ハ債主之
ヲ取消スニ非サレハ破産裁判所ハ公廷ヲ開
キ雙方ヲ審問シ證人ヲ訊問シ其他證據物ヲ
審査シタル後主任裁判官ノ具狀ニ由リ成ル
可ク一括シテ之ヲ判決ス可シ關係者出頭セ
サルモ開廷スルモノトス

第五十二條 判決ハ成ル可ク債主ノ集會以前ニ下ス可シ若シ然ルヲ得ス又ハ其判決ニ對シテ控訴スル中ハ裁判所ハ其債主ヲ集會ニ叅與セシム可キヤ又幾許ノ金額ノ債主トシテ之ニ叅與セシム可キヤヲ定ム可シ先取權又ハ別除權ノミニ付キ異議ヲ受ケタル債主ハ通常債主トシテ集會ニ叅與スルコトヲ得

第五十三條 正当ノ時期ニ於テ要求ヲ届出テス若クハ要求ノ確定セラレサル債主ハ爾後ノ確定ニ依テ為ス可キ財團配當ニノミ加ハルコトヲ得然レモ異議ヲ受ケ訴訟中ニ在ル要求ノ為メ並ニ届出及調査ニ付別段ノ期限ヲ

定メラレタル國外債主ノ要求ノ為メハ以前ノ配當ニ於テ其受ク可キ割前ノ金額ヲ留置ク可シ

第二節 特種ノ債主

第五十四條 負債本人ノ破産ニ對シ届出タル要求ハ寛假契約ノ場合タリモ保證人其他共同義務者ニ對シ其全額ニ付キ之ヲ主張スルコトヲ得

共同義務者ハ負債本人ノ破産ニ對シ其償還要求ヲ届出ルコトヲ得然レモ負債本人ノ為メニ為シタル寛假契約ノ効果ニ從ハサル可カラス

第五十五條 共同義務者數人破産シタル中ハ

其各財團ニ對シテ要求ノ全額ヲ届出ルコトヲ
得其各財團尙ニ於テハ償還要求権ヲ行フコ
ト得ス然レモ債主ノ受クル割前ノ合計額其
元金ト附属金トヲ合セタル要求ノ全額ニ超
過スル中ハ其過剩ハ共同義務者ノ内償還要
求権ヲ有スル者ノ財團ニ歸ス

第五十六條 左ニ掲クル要求ハ届出及確定ニ
付テノ規定ニ依ラス

第一 破産處分上裁判管理其他ノ費用

第二 公費及公ケノ手数料

第三 財團ノ為メ管財人ノ負擔シタル義務
ヨリ生スル要求

右ハ主任裁判官ノ指令ニ依リ通常ノ方法ヲ

以テ財團ノ現額中ヨリ支拂フ可シ

第五十七條 破産者ニ科セラルタル罰金及破
産處分ニ加ハルカ為メ債主ニ生シタル費用

ハ財團ニ對シテ之ヲ要求スルコトヲ得ス

第五十八條 有夫ノ婦ハ明約又ハ判然タル慣
習ニ依リ自己ニ屬スル所有権ヨリ生スル要
求ニ限り夫ノ財團ニ對シテ之ヲ主張スルコ
ト得

第三節 債主集會

第五十九條 債主集會ハ主任裁判官之ヲ召集管
理シ其集會ハ會議ノ事項ヲ記シタル公告ヲ
以テス可シ

集會ニ加ハル者ハ管財人及要求ノ確定ヲ受

ケ若クハ第五十二條ニ依リ許容セラレタル
債主トス別除権ノ確定ヲ受ケタル債主ニ在
テハ之ヲ拋棄シタル中又ハ其権ヲ執行シ尚
完全ノ辨償ヲ受ケサル中ニ限ル可シ
債主ハ代人ヲ出ス丁ヲ得又集會ニハ破産者
ヲ呼出ス丁ヲ得

第六十條 集會ノ決議ハ出席債主ノ過半数ニ
シテ其要求金額ノ半額以上ニ當ルモノヲ以
テスルヲ通則トス

第六十一條 集會ニ於テ主任裁判官ハ從來ノ
處分ニ付キ報告ヲ為シ管財人ハ管理ノ方法
其結果並ニ財團ノ現況ニ付キ報告ヲ為ス可
シ

集會ハ前項ノ報告ニ付キ議決シ又ハ主任裁
判官又ハ管財人ノ考案ニ付キ及債主ノ申立
又ハ主任裁判官ノ許可ヲ得テ為シタル破産
者ノ申立ニ付テ議決ス可シ此議決ハ裁判所
ノ認可ヲ受ケ可キモノトス

第七章 寬假契約

第六十二條 破産者法律ニ規定シタル義務ヲ
履行シ有罪破産ノ判決ヲ受タルニ非ス又審
問中ニ在サル者ハ主任裁判官ノ許可ヲ受ケ
第一集會ニ於テ債主ニ寬假契約ヲ申出ル丁
ヲ得又充分ノ理由アル中ハ以後ノ集會ニ非
テモ之ヲ申出ル丁ヲ得然レモ寬假契約ノ申
出ハ唯一回ニ限ルモノトス

第一集會ハ普通ノ調査期日ヨリ四週ノ後之
ヲ開クモノトス寛假契約ノ考案ハ公衆ニ示
ス為メ少クモ二十日以前ニ裁判所ニ差出し
裁判所ハ其旨ヲ公告ス可シ

第六十三條 寛假契約ノ承諾ハ出席債主ノ過
半数ニシテ議決権アル總要求額四分三以上
ノ同意ヲ要ス

管財人及議決権アル債主並ニ後レテ要求ノ
確定ヲ受ケタル債主ハ寛假契約ニ對シ十日
以内ニ理由ヲ付シタル異議ヲ裁判所ニ申立
ルコトヲ得

第六十四條 債主ノ承諾ヲ得タル寛假契約ハ
裁判所ノ認可ヲ得テ始メテ効力アルモノト

ス裁判所ハ主任裁判官ノ供述ニ依リ職権ヲ
以テ前條ニ掲ケタル期限經過ノ後直チニ其
認否ノ判定ヲ為ス可シ

破産者及總テ異議申立ノ権アル者ハ寛假契
約ノ認可セラレタルト棄却セラレタルトヲ
向ハス其判定ニ對シ控訴スルコトヲ得

第六十五條 左ノ場合ニ於テハ寛假契約ヲ棄
却ス可シ

第一 第六十二條及第六十三條ニ掲ケタル
規定ヲ踐マサル時

第二 寛假契約ノ為メ債主中自己ノ承諾ナ
クシテ不公平ノ處置ヲ受ケ損害ヲ蒙
ル者アル時

第三 詐偽其他不正ノ方法ニ由テ寬假契約ヲ為シタル時

第四 公益又ハ債主一般ノ利益ニ背馳スル時

第六十六條 破産者後ニ有罪破産ノ判決ヲ受ケタル中ハ其寬假契約自ラ消滅シ其審向中ニ在ル中ハ放免ノ申渡ヲ受ル迄停止セラレ、モノトス

前條第三ノ理由アル中ハ後ニ至リテモ寬假契約ニ對シ異議申立ヲ為スコトヲ得

第六十七條 寬假契約確定シタル中ハ管財人ハ直チニ其職ヲ罷メ清算ヲ為シ破産者ハ別ニ寬假契約ニ定ムル所アルニ非サレハ自己

ノ財産ノ引渡ヲ受ケテ自由ニ管理處分スルコトヲ得但寬假契約ノ履行ハ主任裁判官ノ監視及差配ヲ以テ之ヲ為ス可シ

第六十八條 寬假契約認可セラレサル中又ハ後ニ消滅シ若クハ棄却セラレタル中ハ再ビ破産處分ヲ施シ直チニ財團ノ変價及配当ヲ以テ其局ヲ結フ可シ但此處分ニハ其間ニ要求權ヲ得タル債主モ参加スルコトヲ得

寬假契約ヲ履行セサル場合ニ於テハ之ヲ解除シ前項ト同シク處分ス可シ但寬假契約ノ為メニ立テタル保證人其義務ヲ免ル、コトヲ得ス

第八章 配當

第六十九條 第五十六條ニ掲クル要求及特權

アル要求ヲ支辨シテ残ル所ノ財團ハ平等ノ
割合ヲ以テ其他ノ債主ニ配当ス可シ

破産者数種ノ營業ヲ互ヒニ獨立セシメテ為シタル中ハ
各營業ニ對スル債主ハ其財團ニ付キ先取権ヲ有ス

第七十條 配当ハ普通ノ調査期日ノ後ニ於テ財團

ノ現存高相應ノ額ニ達スル毎ニ管財人配当案ヲ
調製シ主任裁判官ノ許可ヲ受ケ其案ニ基キ之ヲ為

スモノトス其配当案ハ主任裁判官署名シ公衆ニ
示ス為メ裁判所ニ備置キ且其旨ヲ公告ス可シ

配当案ニ對スル異議ハ公告ノ日ヨリ十四日
以内ニ裁判所ニ申立ルコトヲ得

第七十一條 配当ノ支拂ハ前條ニ揚ケタル期
限内ニ配当案ニ對シ異議ノ申立ナキ片又ハ

異議ノ申立アルモ其落着ニ至リタル中債主
ノ提示スル負債證書ニ照ラシテ之ヲ為シ該
證書ニ其支拂額ヲ附記ス若シ該證書ヲ提示
スルコト能ハサル片ハ主任裁判官ノ許可ヲ得
テ一覽表ノ登記ニ基キ支拂ヲ為ス但何レノ
場合ニ於テモ債主ハ配当案ニ受取證ヲ記ス
可シ

第七十二條 財團ノ變價及配當ヲ終リタル中
ハ債主集會ヲ開キ管財人清算書ヲ差出ス可
シ此清算ヲ認定シタル中ハ裁判所ハ主任裁
判官ノ申立ニ依リ破産處分ノ落着ヲ申渡ス
可シ此申渡ハ公告ス可キモノトス

第七十三條 破産處分落着ノ後ハ債主其辨償

ヲ受ケサル金額ニ付キ負債者ニ對シ破産處
分ニ於テ確定セラレタル權利ニ基キ隨意ニ
其要求ヲ為スコトヲ得

第九章 有罪破産

第七十四條 破産宣告ヲ受ケタル負債者支拂
停止又ハ破産宣告ノ前後ヲ向ハス履行ノ意
ナク又ハ履行スル能ハサルヲ知リテ高品金
錢其他ノ有價物件ヲ受取り義務ヲ引受タル
中若クハ債主ニ損害ヲ被ラシムルノ意ヲ以
テ貸方ノ全部又ハ一部ヲ藏匿脱漏シ又ハ借
方ノ額ヲ其實ニ超ヘテ掲ケ又ハ商業帳簿ヲ
破棄藏匿シ又ハ其記載ヲ偽リタル中ハ詐偽
破産ト為シ輕懲役ニ處ス

債主財産上ノ損害此細ナル中ハ三月以上ノ
重禁錮ニ處スルコトヲ得

第七十五條 破産宣告ヲ受ケタル負債者支拂
停止又ハ破産宣告ノ前後ヲ向ハス左ノ行為
アル中ハ懈怠破産ト為シ二年以下ノ重禁錮
ニ處ス

第一 過分ナル一身又ハ一家ノ經費賭事空
相場又ハ不相應ノ投機ヲ以テ貸方ヲ
大ニ減少シ又ハ之ニ重債ヲ負ハシメ
タル中

第二 支拂停止ヲ遷延センカ為メ損害ヲ生
スル取引ヲ以テ支拂ノ料ヲ調ヘタ
ル中

第三 支拂停止ノ後支拂又ハ抵保ヲ為シテ
債主ノ一人ヲ利シ財團ニ損害ヲ加ヘ
タルキ

第四 商業帳簿ヲ秩序ナク記載シ又ハ破棄
藏匿シ又ハ全ク記載セサルキ

第五 開業ノ時及毎年度ノ終リ又ハ毎半年
ニ財産目録及貸借對照表ヲ製シ之カ
為メ設ケタル帳簿ニ記入ス可キ法律
上ノ義務又ハ第二條第二十七條第二
項ニ掲ケタル義務ヲ履行セサルキ

第七十六條 前二條ノ罰則ハ高社ノ業務擔當
ノ任アル社員取締役及結算人ニ適用シ又第
七十四條ノ罰則ハ破産管財人及有罪ノ行為

ヲ為ス了ニ就テ犯者ヲ助ケ又ハ犯者ノ為メ
ニ其行為シタル者ニ適用ス

第七十七條 債主集會ノ可否決ニ關シ債主ノ
一人若クハ數人ニ賄賂ヲ為シタルキハ双方
共ニ二年以下ノ重禁錮又ハ千円以下ノ罰金
ニ處ス

第十章 破産ニ係ル一身上ノ結果

第七十八條 破産宣告ヲ受ケタル負債者又ハ
破産シタル高社ノ無限責任アル社員若クハ
取締役ハ復権ニ至ルマテハ相場會所ニ立入
リ又ハ仲立人トナリ合名會社若クハ合資會
社ノ社員トナリ株式會社ノ取締役トナリテ
高業ヲ為シ又ハ結算人破産管財人若クハ高

業上ノ代理人タルノ職ヲ執リ又ハ高法會議
所ノ會員トナリ其他商業上ノ榮譽職ニ就ク
コトヲ許サス

第七十九條 復権ヲ得ルニハ寬假契約ノアル
ニ拘ハラズ元金利息及費用ヲ合セ總債主ニ
其全額ヲ辨償シタルコト又ハ所在ノ知レサル
カ為メニ未タ辨償セサル債主ニ全額ヲ辨償
スルノ用意及資力アルコトヲ證明スルヲ要ス
復権ノ申立ニハ債主ノ受取證其他必要ノ證
據物ヲ添フ可シ
寬假契約アル場合ニ於テハ債主ニ辨償シ終
リタルコトヲ證明スルニ非サルモ相場會所ニ
立入ルコトヲ得又高社ニ在テハ現在ノ社員又

ハ取締役之ヲ繼續スルコトヲ得

第八十條 復権ノ申立アル中ハ破産裁判所ハ
異議アル者ヲシテニヶ月以内ニ異議ヲ申立
テシムル為メ裁判所揭示板及相場會所ニ掲
示且新聞紙ヲ以テ公告シ又其調査及搜索ノ
為メ檢察官ニ通知ス可シ裁判所ハ豫メ檢察
官ノ陳述ヲ聞キ前條ノ證明其他法律上ノ要
件具備スルニ於テハ復権申立ヲ許可スルモ
ノトス此場合ニ於テハ訴訟上ノ法式ヲ用ユ
ルコトナシ
右裁判所ノ判定ニ對シテハ控訴スルコトヲ得
終審ノ判定ハ之ヲ公告ス可シ
復権ノ申立棄却セラレタル中ハ三年ヲ經過

スルニ非サレハ再ヒ之ヲ申立ルコトヲ得ス
第八十一條 復権ハ負債者死亡ノ後ニ於テモ
之ヲ許可スルモノトス

第八十二條 詐偽破産者ハ復権ヲ許サス又破
産者ニシテ重軽罪ノ為メ剥奪公権若クハ停
止公権中ニ在ル者ハ復権ヲ許サス
懈怠破産ノ場合ニ於テハ其刑期ヲ終リ又ハ
其刑ノ特赦ヲ得タル後ニ非サレハ復権ヲ許
サス

第十一章 支拂猶豫

第八十三條 高業ヲ為スニ方リ自己ノ過失ナ
クシテ一時已ムヲ得ス支拂停止ヲ為シタル者
ハ高事上ノ債主ノ過半数ノ承諾ヲ經住地ノ

裁判所ノ許可ヲ以テ之ニ對スル負債ニ就キ
一年以内ノ支拂猶豫ヲ得可シ

第八十四條 支拂猶豫申立書ニ添フ可キモノ
左ノ如シ

第一 支拂停止ノ原因ノ詳細書

第二 貸借對照表、財産目錄及住地ト要求額
トヲ附記シタル債主ノ名簿

第三 債主ニ其元金及附屬金ヲ辨償スルノ
方法及期限並ニ之ニ對シ差出シ得可
キ保證ノ證明書

右申立書ハ其添書ト共ニ公閱ノ為メ裁判所
ニ備置キ債主集會ノ期日ヲ定メテ之ト共ニ
其旨ヲ公告シ債主ハ特別ニ招集セラル可シ

裁判所ハ假ニ支拂猶豫ヲ許可スルコトヲ得

第八十五條 債主集會期日ニハ裁判所ヨリ任

シタル主任裁判官ノ上席ヲ以テ負債者ト債

主ノ間ニ支拂猶豫申立ニ係ル會議ヲ開ク

可シ其申立ノ承諾ニハ第六十條ニ記載シタ

ル決議ノ方法ヲ要ス其會議及議決ニ付テハ

筆記ヲ作ル可シ

第八十六條 裁判所ハ主任裁判官ノ陳述ニ由

リ其承諾セラレタル支拂猶豫ノ許否ヲ判定

ス可シ

支拂猶豫ハ請願ニ因リ延期スルコトヲ得然レ

モ一年以内ニ限ルモノトス

第八十七條 支拂猶豫確定シタル中ハ負債者

ハ其期限内中確定以前ニ為シタル商業取引上

ノ要求ノ為メニ牽制執行及破産宣告ヲ受ク

ルコトナシ但其契約ノ履行及業務ニ付テハ主

任裁判官ノ監視ヲ受クルモノトス

負債者ノ保證人及連帶義務者ノ義務ハ右猶

豫ノ為メニ変スルコトナシ

第八十八條 支拂猶豫承諾ヲ得ス又ハ裁判所

ニ於テ之ヲ棄却セラレタル中又ハ後日負債

者ノ詐偽若クハ不正ノ行為アリタルカ為メ

若クハ法律上ノ要件喪失シタルカ為メニ廢

棄セラレタル中又ハ負債者其契約ヲ履行セ

サル中又ハ其期限内ニ負債者他ノ債主ヨリ

牽制執行ヲ受ク可キ中ハ直チニ負債者ニ對

シ破産處分ヲ為ス可シ但支拂猶豫申立ノ日
附ヲ以テ支拂停止ノ日ト為ス

